

仕事と人生 (改訂版)

中西卓

仕事はしんどいだけではない、仕事が生きがいの源泉であり、遊びの楽しさも余暇なればこそである。

ポーと生きてきた過去を 次回のテーマに従って 以下自分なりに回顧する。電気設備の設計が本業だが その場は様々である。現役でその道を外れることはなかったが、リタイア後は別世界を遍歴した。

— 現役時の 36 年 —

◇ **護衛艦の設計** 舞鶴で 18 年：軍需産業に携わることに葛藤があったが、商船とは段違いの装備と技術に嵌りこんだ。60Hz (動力・照明など) と別に 400Hz 電源 (デジタルでなく歯車によるアナログ計算でレーダー/ソナーの索敵と射撃/魚雷など攻撃の制御)、船体消磁や被弾時に生き残るための信頼性を追求する特異性。防衛庁技研本部で US NAVY の仕様書と設計基準の解読から始まった。旧海軍の技術将校を含めて海上自衛隊は紳士で合理的思考の風土、若造でも馴染みやすかった。初め 3 年余の東京滞在と後の艦艇電気委員会への参加が、海自と業界を知る上で設計外の仕事が視野を広げるのに役立った。

若狭湾を北へ一直線に進むと青い海にトビウオが跳ねる、急旋回時は立ってるのが困難な傾き、商船の船長だったドックマスターがジープを運転してるみたいだと言った海上公試を経験した。1500 トン型 DE 4 隻のあと補給艦とわだ (湾岸戦争に最初の派遣) の設計半ばで転勤。

《41 になったとき、造船不況とオイルショックの余波で心ならずも陸への転勤を強いられた。箱庭から巨大な系統容量の世界へ、同じ電気技術でも別分野への転職、一担当として再出発の転換だったが電気やとしては本流を歩むことになった。》

◇ **プラントの設計など** 大阪市桜島で 18 年：都市ごみ処理施設を横浜市保土ヶ谷、水戸市、長野市で計 7 年。発電、水処理施設などを 11 年。単線結線図の基本設計、機器と電気工事の発注が主な仕事だが、客先や業者と折衝がある。傍ら、新規案件の見積もあって同時並行運転の多忙。一方、プロジェクトごとに顔ぶれが変わる他分野の仕事仲間と交流し視野が広がったのは代えがたい収穫? であった。殊に建築デザインに興味を持つようになったのと、週末に西九条でのれんをくぐるようになったのもこの頃だ。

40 代の終わりにインドネシア・アチェの製紙プラント案件にかかわったが、合弁相手の米ジョージアパシフィックは中古のボイラ・タービン・発電機を現物出資、当方は円借款で参加というプロジェクト。発電設備の資料がマイクロフィルムの時代で、CRT のモノクロ図面を凝視する日が続いて目を疲れさせた。アトランタのエンジニアリングセンターとアーカンソーの工場へ出発が近づくあせりのストレスもあった。そうこうするうち、中曽根総理が東南アジアを

歴訪、インドネシア政府と折衝で円借款がご破算になった。期待の海外出張がなくなった残念の一方、重荷がとれてやれやれの半年だった。

50 過ぎて初めての海外工事をカタールの水処理で担当したのがサラリーマン人生の山場だったかと思う。外国人技師との折衝、砂漠風土と巨大なトレンチ、大径のガスタービン発電機など何もかもが初めと終わりのの体験だった。工場内を移動するのにカーマニア英国人技師のおんぼろキャデラックの助手席に乗せてもらった思い出がある。30 余年前、首都ドーハの都心でも未舗装だったのが今は地下鉄が走っている。

様々な仕事の中で必要に迫られて始めた積算・見積の Multiplan (Lotus123, Excel が後継) は汎用価値があり、その後も役に立っているのが有難く私の隠れた財産である。

— リタイア後、岡山での遍歴 —

28 年前の暮れに退職し翌 3 月に岡山へ転居。大阪と様変わりの自然環境は頭上にあった覆いがとれた感じがしてその後の生き方が変わったように思う。自らが選んだ異業種への興味と冒険心で、地方なればこそその様々な仕事をしてきた。

- ◇ **造園** 岡山農業公園ドイツの森で 3 年： 当てにしていた地元企業への就職が景気変動でかなわず、隣人達と 3 か月ばかりゴルフ三昧の日々だった。遊ぶばかりの日常に疑問を持つようになったとき、“農業公園の従業員募集”の新聞折り込みを見て冷やかし半分で北へ 10 km の吉井町役場へ面接に出向いた。ロビーにたむろするのは日焼け顔の農家で 聞きなれない方言を耳にした。2 回目の面接で花を担当するならば (電気と水の管理も) とオーナー社長が即決採用。

6 月から始めた仕事は山掃除 (倒木整理と笹刈り) と水路造りが主で、近くを数台のスクレーパが行列して高所の土を削り低地に運んで人工池を造っていた。初めて眺める公園の造成工事はスケールが大きい光景だった。

どこにどんな花を植えるか、神戸・西神中央近くの農業公園を見に行ったり 分厚い草花図鑑を繰って、趣味ならぬ学習に励んだ。地山の真砂土は保水力がないので田圃の底土を入れて牛糞を鋤き込んだ土壌は花苗に馴染まなかった。県の指導員に相談すると生理障害と言うが 何のことはない根腐れだった。使い慣れない耕うん機で根気よく耕し、初めは珍しさより地元にある丈夫な花を選ぶことになった。まだ水道が通じていなかったのも、日照りが続くと隣の先輩に水タンクを積んだ軽トラを頼んだりしてお世話になった。冬、夕食時に霜注意報を TV で知って妻を道連れにマイカーで駆けつけ石鉢の花に覆いをかけたこともある。4 月のオープンが近づくと他部

門の老若女性の応援を得たが、自らは段取りに明け暮れた。夏の炎天、冬場の冷え込み、馴れない仕事に疲れはしたが苦にならなかったのは仲間がひ弱な町育ちの私を思いやってくれただけでなく、誠実で勤勉な農民・百姓に尊敬の念を持ったことにもよる。樹木の植え込み、芝の管理などプロに学ぶことも多く、団地近隣公園の緑化や自宅の庭づくりに役立っている。植栽とトイレの用水は公園下の川水を利用していたが、園内高所に設置した貯水槽のレベルセンサが水垢で汚れたのを拭うために山を駆けあがってタンクに潜り汗をかいたのも遠い思い出である。花の植え場所・面積に応じた数千の花苗を手配するのに、PCの表計算がなかったら大変だったと思う。

春と秋に2週間、“民俗芸能ショー”にドイツの農村から老若の男女6人がやってくる。離日前の宵にさよならパーティがあってレースライン on ハイデンや オータンネンバウムを腕組んで歌うと喜んでくれた。ドイツ語講座の最初に習ったのが頭に残っていたのだ。

- ◇ **盤メーカー** ダイシン電機で半年：上記の公園を建設したのが大阪のジェネコンで、電気設備工事を請負ったのが近電工（現きんでん）だった。すべての盤類を地元メーカーに発注、納品検査で社長が自ら案内してくれたが、経営理念に共感して後日社長室に就職、営業の傍ら設計・見積の標準化に携わった。僅か半年であったが創業社長の眩きに触れ、中小企業の実態を知る貴重な機会であった。前政権の官房長官だったK氏が初出馬したとき、社長が昼休みに100人足らずの従業員を集めて紹介したことがあった。違法でなくても、いかにも田舎らしい場面だった。
- ◇ **ベンチャ企業** 創造化学研究所で10日間：岡山大学名誉教授が現役時に特許取得した有機溶媒の循環回収プロセスを実用化、研究室向けをスケールアップして半導体工場に適用するのに電気技術が必要との話に応じたが、本来業務にかからず終いで辞めることになった。論文に余念がない先生の傍ら、社内を仕切る夫人が客人の送迎、コンビニへの走り使いなどあらゆる雑用を命じる「研究所」の内情が分かった。化学ではMac PCが常用されるが、日本語変換のEGブリッジに馴染めず、硬くなった脳に負担があったのも一因。十数年経った今近くをバスで通るたび、当時プレファブ2階建てだったのが立派な3階になったのを見ると、企業としてまともだったのかと頭を傾げる。あのときMac PCで亀の甲の構造式をこなしていたら別世界があったかとも思ったりする。
- ◇ **駐車場** 後楽ホテルで2年間：山仲間誘われて岡山都心に新設したシティホテルの高速立体駐車場の管理に携わった。

定期 100 人と一見客を相手にする未経験の客商売に珍しさがあつた。ホテル 2 階の開業医と親しく話すのはいいが、様々なビジネスマンや飲食店主などに気難しい人もいた。定期客の操作ミスでブレーキコイルが焼損するトラブルのとき、電気やの出番があつて以後ホテル総支配人らの見る目が変わつた。早朝・深夜の交代勤務で体力に不安が出てきて辞めることにした。ここでも、利用客管理（営業報告）に Lotus123 が役立つた。

◇ シルバーで 延べ十年余り：家から近い山陽ふれあい公園の落葉掃きに週 1 回通つて、僅かながら懐を潤すことができた。

気楽で気儘なリタイアンに格好の仕事だが、普通なら出会うことがない仕事仲間とコミュニケーションが楽しかつた。広くて起伏に富んだ園内で四季折々の彩が、分けても池畔のラクウショウの芽吹きと梅雨どきアジサイの鮮やかさが目に浸みた。大量の落葉(ドングリが生る木の硬い葉)を袋に詰めて清掃センターで焼却していたのを 園内の片隅に作った竹囲いに積んで堆肥化する提案が実現して 10 年、市民の誰でも持ち帰れる良質の堆肥を喜んでもらっている。ドイツの森での経験がなければできなかつたことである。

— 市民運動としての環境活動 —

リタイア後は自由な時間がある。仕事に使つていた頭を別の方に向けるようになって、過去になかつた仲間と交流の世界が広がつた。

□ エネミラ（NPO 岡山エネルギーの未来を考える会）： 23 年前、原発問題について飯田哲也さんの講演を聴いた 10 数人の仲間が立ち上げた団体で、化石燃料や原発に頼らない自然エネルギー利用を唱えた。当時の岡山市行政のバックアップを得て市立保育園に毎年 1 基づつ太陽光発電（PV）を設置していった。メンバーの多くは kW と kWh を区別できない主婦たちだったが、NPO への組

織化と会員募集、募金・資金調達に意外な力を見せつけた。自然エネルギー学校や高知県梶原町へのエコツアーなど楽しい行事もあり、京都の NGO 気候ネットワーク傘下で世界レベルの情報を得るなどして、県内トップレベルの環境団体になった。

初めの数年は技術担当理事として、PV の計画から施工、データ管理まで一切を担当した。やがて 2 周り若い電気のプロが入ってきて 引き継いでもらった。彼は有能な現役公務員だったが公共工事ではないのに発注仕様が詳細すぎて業者側に合理化の余地がなく、企業 OB の自分からみれば役所流の不都合が目についた。数年前にエネミラを辞した頃は会員が 180 人にもなっていたが、仲良しクラブ的組織が硬直化、役所や電力会社への気遣いや忖度もあるようになってきた。でも活動から退いた年寄りは何も言うことができない。

PV の実務を経験して思うのは、自治体が設置する PV の出力表示盤は大きくて立派、発電量のトレンドグラフが目をつくが「設備容量・kW」を明示してないことが多い。発電電力量 / 設備容量で経済評価できるが分母が不明なのだ。

PV を設置した近くの小学校で、発電量を生徒に記録させて環境学習の手始めにと提案したが、カリキュラムにないからと拒まれた、教委に話しても受けられず、「環境」が地についていないのを実感した。

- **あかいわ美土里の和**：100 年前の里山が桜が丘団地造成後は保健保安林に指定された。財政難のためか、50 年近く放置されてきた荒山を 10 余人の仲間が地元住民の協力を得て里山に蘇らせた。磐山と観音山をつなぐハイキングコースができ、自然観察、草木染、トリークライミングなど一般人の参加行事もある。生物多様性の見地から、地元学者らによる野生動植物調査会が市の外郭団体として活動している。山麓に自生したシナアブラギリの若木を尾根近くに移植して健全な明るい山に、バイオマス資源利用も視野に山の再生を目指す。体力が衰えた私は名ばかりの会員であるが、初日の出や 総会後の山での花見に仲間と会う楽しみがある。
- **あかいわエコメッセ**：当地に移住後 5 年ばかりで参加した地元環境グループ。毎夏に「あかいわエコメッセ」の展示を続けている。ごみ処理広域化・ガス化溶融炉問題、上関原発など身近な問題からチェルノブイリ原発、福島原発まで、更には温暖化問題など、取り寄せた視覚資料に自作データ

資料を加えた活力ある展示が好評である。私は実務経験からのごみ処理問題を今も続けている。山を削る大規模 PV や大池の水面 PV が自然破壊の見地から地元条例提案のグループに参加している。エネルギーも地産地消でなければならないのに そうでない現状にもの申したくなる。



桜が丘住民の多くは環境問題だけでなく、選挙や自治にも無関心である。大阪でそうだった自分を考えればわからないではないが、今地球レベルの自然環境課題と ミサイルが飛び交う国際情勢をみれば穏やかではおれない。

今度のテーマ「転職・転勤・転居」を HP で先行諸兄姉のスマートな回顧録に比べようもない我が過去を恥ずかしげもなく駆け込みで述べたのは、87 までの人生をここで総ざらえしておきたいと思ったからです。

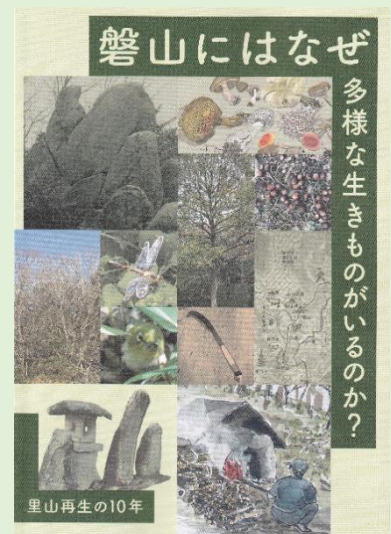
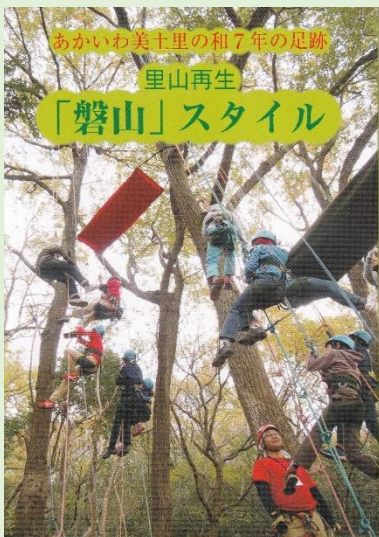
“終りよければすべて良し”と自己満足しているのと、これまでの職場と仕事仲間ばかりでなく、家族の支えがあったからこそと感謝する次第です。

(おわり)



下は あかいわ美土里の和が 2018 年 3 月と 2022 年 3 月に刊行した記念誌です。

何れも A5 版 80 頁の小冊子ながら、殊に後者は格調高さと親しみを兼ね備えた読み物と評価しています。



2022. 3.26 KOZOOM 28 サロンに向けて HP に駆け込み投稿

2022. 4.22 全面改訂を投稿